

八丈島 水産だより

10月号

2006



「暑さも寒さも彼岸まで」とはよく言ったもので、だいぶ過ごしやすい季節になりました。島の道ばたには彼岸花(曼珠沙華)がみごとに咲きみだれています。

9月は、幸い台風の直撃はなかったものの、漁業では2つの台風の余波で出漁日数が少ない月となりました。

漁師さんの裏方のしごと

時化で漁に出られないときでも漁師さんは、漁の道具づくりや、餌の準備などたくさんの仕事があります。下の写真はキンメ釣りの餌にするイカを切っているところです。短冊形に切ったイカは塩をまぶして冷凍保存し、漁に備えます。



また右の写真は、ムロアジのミンチを作っているところです。ミンチはシマアジ養殖の1年分の餌として冷凍保存しておきます。



イルカによる漁業への影響

イルカは、とても頭がよく、水族館などでは、人気のある動物です。でも、漁業では、イルカが釣った魚を食べるなどの影響が問題になっています。八丈島の周りの海にもバンドウイルカなどがいて、漁師さんが釣ったキンメダイなどを食べてしまう被害が増えています。漁師さんによれば、イルカは釣った魚だけを上手に針からはずして食べてしまうそうです。漁業とイルカとがどのように共存していくかが課題となっています。

